埼玉学園大学・川口短期大学　機関リポジトリ

<Education Study Report> A Practice Report of Practical Seminar for the Nurturing Expressive and Creative Skills of Children in 2013

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木谷, 安憲 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/355

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 25 年度保育内容（表現・造形）の実践報告

木　谷　安　憲

1　はじめに

1.1　本実践報告の目的

1 年間の「保育内容（表現・造形）」[1] のすべての授業を記録し振り返ることで，保育者に必要な造形表現のどのような力が身について，どのような力がまだ足りないかを考察したい。また，本授業を通して，保育者としての資質の向上に何が必要か明らかにし，今後の授業改善に生かしたい。

1.2　本科目の授業目標と授業概要（平成 25 年度シラバスより）

①　授業目標

子どもの感性・情操を育み，生活を心豊かに創造していくためには，造形は欠くことのできない表現能力のひとつである。本授業では基本的な造形表現について，子どもの保育内容と関係づけた造形演習を通して，「子どもに関わる造形表現の基礎知識と応用力」の習得が目標である。

②　授業概要

本授業では，保育の中での子どもの造形表現活動を想定したテーマのもとに演習を行う。造形表現に具体的なテーマを設定することは，造形活動が持つ意味を明確にしていくことがねらいである。毎回テーマに沿った講義と演習課題を設定し，取り扱う素材や，実践するための基礎的な知識と技能を習得していく。受講生の発想やその制作プロセスを重視し，自らが，創作活動によって造形の楽しさや感動を味わう事により，子どもの意欲的な活動を引き出す力や，造形に現れた幼児のこころの姿を感じ取れる保育者としての資質や教養の向上を図る。最終的には自らがテーマ設定をし，保育者として実践で使えるようになるための応用力を養う。

2　平成 25 年度 保育内容（表現・造形）の内容

保育内容（表現・造形）の全 30 回の授業の内容は以下の通りである。

2.1　前　　期

第 1 回　「授業のガイダンス」 いい保育者になるためには，「自分を知り」「保育を知り」「子どもを知る」事が大切で，将来先生になるのであるから，授業を受ける態度として「私語禁止」「ていねいな言葉使い」「正しい姿勢」という三つのことを重視するように話した。また似顔絵入りのアンケートを行い，「図工美術で楽しかったこと」「ほめられて嬉しかったこと」「自分の長所や特徴」について聞いた。

第 2 回　「色紙でつくる　おなまえデザイン」（図 1）　どんな保育者になりたいか考えながら名前をひらかなでデザインし，折り紙とクレヨンで完成させた。できた作品を持つと，学生の表情も保育者のように見える（図 2）。



図 1　（本人の了解を得て掲載）



図 2　（これ以降のスケッチブックの絵は，すべて彼女の作品）

第 3 回　「混色①」 色の 3 要素，色味（色相），明るさ（明度），鮮やかさ（彩度）について学習し，赤青黄色を少しずつ混ぜて順々に塗っていった。その後，グラデーションになっている点々を利用して絵を描く。混色の点々があることで，カラフルな絵が仕上がった（図 3）。

第 4 回　「混色②」 前回に引き続き混色を利用したお絵描きをする。三原色に白と黒を加えた混色をした。絵を描くことを前提として色まぜした点を画用紙につけ，作品を完成させた（図 4）。

第 5 回　「ゴシゴシあそび」[2]　園児と一緒に行えたら楽しい題材をクラスごとに考え制作（図 5）する。活動のねらいとしては，絵の具の感触を味わう感覚的なことと，塗り広げの仕方を学ぶ技術的なことがある。学生には，子ども達はそれこそが面白いのだから絵の具が広がっていく様子を必ず見るように指示をした。

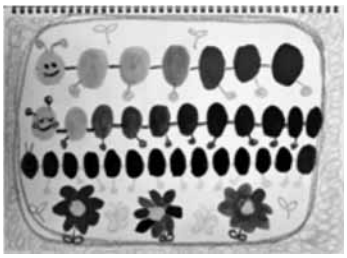


図 3

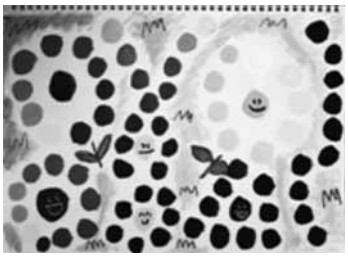


図 4

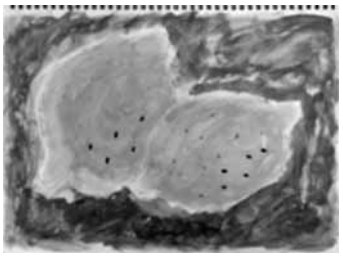


図 5（このクラスのテーマはくだもの）

第 6 回　「シルエットをつかった共同制作」[3]　行程としては，①動物などのシルエットを 7 匹くらい描く，②友達に回して，シルエットの上に何かを描き加えてもらう，③自分のところに戻って来たら背景を描く，というものだ（図 6）。作品のテーマ・タイトルは先に決めて回してもよいし，背景を描く時に決めてもよいことにした。

第 7 回　「シルエットをつかった制作」　同じシルエットでも，上に何を描くかによって絵のバリエーションが広がる（図 7）。4 つのシルエットに対して以下の指示をした。①意外なものを中に描く，②中に模様を描いて動物を仕上げる，③点々を描く，④「動物の中に動物を描く」「中にたくさんの顔を描く」「中に風景を描く」など各自工夫して描く。



図 6（タイトルは「海と陸のおともだち」）

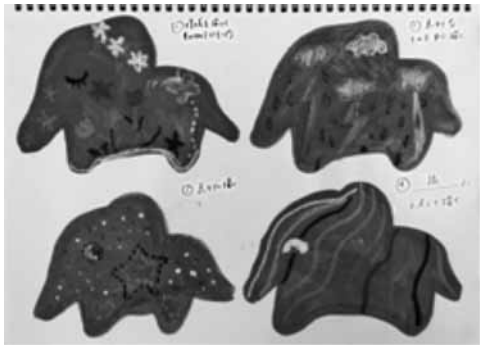


図 7

第 8 回　「条件・制約を決めた活動」　園児がどんな作品をつくりそうか想像し，各自が現場で使える活動を考え見本を描いた（図 8）。条件・制約というのは園児が創造力を発揮しやすいように先生側でつくる「仕組み」のことであり，その際，園児が自由に描いたりつくったりする部分を意識するように指示をした。

第 9 回　「条件・制約を決めた活動・授業の導入を全員の前で発表」（図 9）　分かりやすく説明できたか，園児が「やってみたい」と思うような題材だったかについて発表後振り返った。各クラスで自分が園児だったら受けてみたい授業に投票し，次回の先生役を決めた。

第10回　「条件・制約を決めた活動・クラス代表による授業」　各クラス以下のような題材で行



図 8



図 9

われた。1 組「○と△で絵を描こう」，2 組「かつらやさん」，3 組「みんなでドライブ」（図 10），4 組「どうぶつの親子」，5 組「⊆⊇このかたちなにかな？」，6 組「なんでもめがね」，7 組「おにのパンツはいいパンツ」，8 組「あめのひは　たのしいよ」，9 組「どんなどうぶつ　できるかな」，10 組「ふうせんは　どこにいくのかな？」，11 組「こんなおうちに　すみたいな」，12 組「宇宙の夏休み」。

第11回　「七夕飾り」　クラスごとにアドバルーンのモビール(4) に短冊をつけるという共同制作を行う（図 11）。

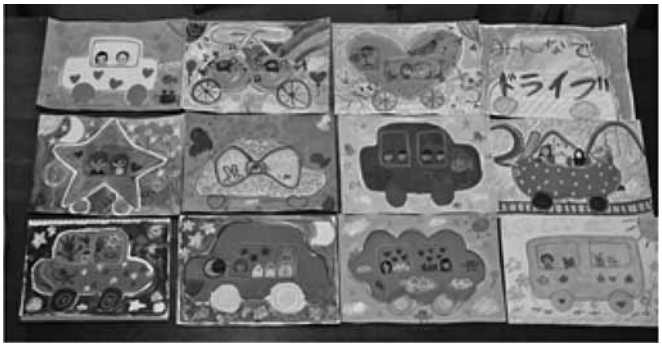


図 10



図 11

第12回　「クラス絵画の展示壁面制作」　模造紙 3 枚に背景を共同で描き，第 10 回で描いた絵をクラスごとに貼りつけた（図 12）。楽しく協力的に制作し，幼稚園の教室壁面を想像しながら，子ども達の絵に優劣をつけないように展示した。

第13回　「切り絵」（図 13）　後期授業の，「学園祭で展示する（紙とセロハンによる）ステンドグラス制作」の練習のために行った。夏休みの宿題として，切り絵の原案を後期最初の授業に持ってくる，というものも今回示した。

第14回　前期最終課題「絵で気持ちを贈る」　その絵を見る対象は幼稚園児とし，将来自分が



図 12



図 13



図 14

受け持つ子達を想像しながら，「どんな気持ちを贈るか」「そのために何をどう描くか」「どう工夫するか」などのことに留意して絵を描いた。また，表現したいことと伝えたいことの違いを味わい，自分が一番大切にしていることを知り，言葉で伝えることと絵で伝えることの違いを感じることも本授業のねらいであった。

第15回　「前期の振り返り」 ①制作を楽しんでできたか，②自分が保育者になるという視点が持てたか，また学期末試験に出題される形式「保育だより」について学ぶ。

2.2　後　　期

第 1 回　「学園祭で展示するステンドグラス制作①・下絵制作」 テーマはクラスごとに考案して行われた。1 組「ひまわり」，2 組「ウサギとかめ」，3 組「スポーツの秋」，4 組「昆虫」，5 組「海の生き物」，6 組「きのこ」，7 組「紅葉」，8 組「パフェ」，9 組「ハロウィン」，10 組「おばけ」，11 組「遊園地」，12 組「宇宙」。

第 2 回　「学園祭で展示するステンドグラス制作②・黒紙の切り抜き」 下絵の 4 隅を，台紙となる黒い紙に貼り，黒い紙は下絵ごとカッターで切る。早い学生はセロファンを貼り始めた。

第 3 回　「学園祭で展示するステンドグラス制作③・セロファン貼り」 地道な作業だが完成予想図があるため，黙々と進めていける学生が多い。

第 4 回　「学園祭で展示するステンドグラス制作④」 今回完成させたかったが細かい図案の学生が多く，延長して次回もこの題材を行うことにした。

第５回 「学園祭で展示するステンドグラス制作⑤」 完成。長い時間をかけただけあって，質の高い作品に仕上がった（図 15, 16）。



図 15 クラス別テーマ，左が４組「虫」，右が３組「スポーツ」



図 16 カフェテリアでの展示風景

第６回 「ステンドグラス制作の振り返り」 また，「いっぽんばし」など手遊び歌を行う。

第７回 「絵本を使った活動」 次回の導入として筆者が絵本を使った活動の見本を見せる。クラスごとの制作として，虫たちが園に行くお話の絵本『なのはちゃんとちいさなおともだち』[5]を読んで，クラスごとに「○○えん」という壁面をつくった（図 17）。各クラス以下のような題材で制作した。１組「ペットえん」，２組「おむすびえん」，３組「どんぐりえん」（図 18），４組「おいもえん」，５組「みのむしえん」，６組「いもむしえん」，７組「クリスマスえん」，８組「リズムえん」，９組「もりのようちえん」，10 組「ぎょぎょえん」，11 組「ゆきだるまえん」，12 組「クリオネえん」。



図 17



図 18

第 8 回　「絵本を使った活動」 各自絵本を用意して，活動案を書き（図 19），現場で使える活動を考え見本の絵を描いた（図 20）。

第 9 回　「絵本を使った活動」 授業の導入を全員の前で発表する。園児が「やってみたい」と思うような題材か，という観点で各クラスが投票し，次回の先生役を決めた。ただし，前期に先生役をした学生に関しては投票の対象にしなかった。

第10回　「ヒンメリ[6] づくり」 折り紙を使ったフィンランドの伝統装飾を各クラスで共同制作した（図 21）。

第11回　「各クラスの代表が先生役をする絵本を使った活動」 各クラス以下のような題材で制作した。1 組「だれのながぐつ？」，2 組「まっくろネリノ」，3 組「みんなのこいのぼり」（図 22），4 組「へーたろうと旅行にいこう」，5 組「まるでなにが描けるかな？」，6 組「トンネルからでてくるのは？」，7 組「おいしくたべよう」，8 組「クリスマスツリーを描こう」，9 組「おつきさまたべちゃった」，10 組「お客さんはだーれ？」，11 組「ほしいものはなあ〜に？」，12 組「今日のワンピースは？」。



図 19



図 20

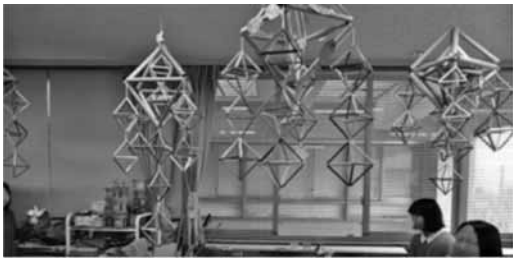


図 21

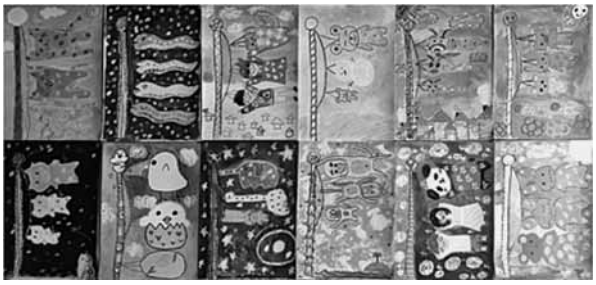


図 22　3 組「みんなのこいのぼり」

第12回　後期最終課題「絵の具を塗った紙を利用した創作活動①」 紙に絵の具を塗り，色のついた用紙をつくり（図 23–25），その用紙を使った活動を考える。エリック・カールを参考とした[7]。

第13回　後期最終課題「絵の具を塗った紙を利用した創作活動②」 作品制作。切り絵，貼り絵，立体物などの制作（図 26–27）。紙コップ，紙皿，ストロー，モール，風船など，いろいろ

な素材が使われた。模擬授業として，4 人グループの中の一人が先生役をする。

第14回　後期最終課題「絵の具を塗った紙を利用した創作活動③」 模擬授業として，4 人グループの中の一人が先生役をし，全員が先生役を終えることができた（図 28)。

第15回　「後期の振り返り」 ①楽しんで，集中してできたか，②自分が保育者になるという視点で取り組んだか，③新しい発見や自分なりの考えを保育の現場とつなげて考えることができたか。



図 23

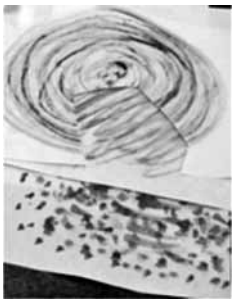


図 24



図 25



図 26

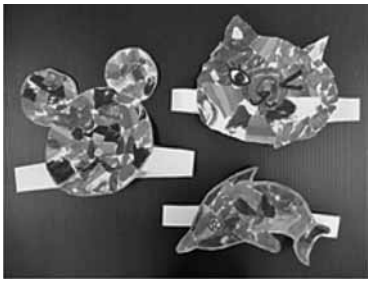


図 27



図 28

2.3　期末考査

期末考査

前期末考査（図 29）問題文 「将来保育の道に進むと決めた高校 3 年生に，絵の楽しさを伝える文章と絵を枠内に記入してください。保育だより・園だよりの形式で文章と絵を読みやすく書いて（描いて）ください。

後期末考査（図 30）問題文　この授業で学んだ一番のことを，絵と短い言葉で，見やすく読みやすく書いて（描いて）ください。来年度の 1 年生に見せるという設定です。ポスターのような形式でも保育だより・園だよりの形式でもかまいません。絵と短い言葉が入っていれば，形式は自由です。鉛筆だけでなく，サインペンやマジックなどを使用してもかまいません。クレヨン

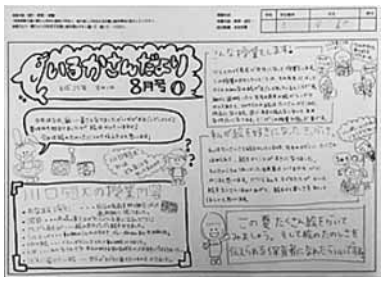


図 29



図 30

やクレパスなど，こすると他の人の紙に色がつくようなものは使用しないでください。

3　おわりに

本授業において，学生が保育者として身につけた造形表現の力とは，仕組みをつくることで創造性を伸ばすことができる基本的な能力であろう。そのことに対する信頼感があればこそ，模擬授業や造形活動の計画を立てていくことができたのである。そして授業の中でも保育者として振る舞うことができるようになると，自然と造形に対する工夫もするようになっていった。また，表現技法や立体造形に触れなかったことで，立体物を認識する力や素材に対する興味関心が低いというマイナス点も見られた。本授業を通して，保育者としての資質の向上には，まず学生が保育者として実践することの必要性を感じた。やってみることで分かる保育者としての態度を身につけることで，その後の学びの速度が加速することが最終課題を通して明らかになった。ただ，自然と触れ合う機会が少なかったことは，まとめてみるとはっきり分かったことであり，今後課題として取り組んでいきたい。

《注》

（1）　平成 25 年度の本学こども学科は 150 人の定員で，12 〜13 人で 1 クラスという単位となっている。保育内容（表現・造形）は，そのうちの 4 クラスが合わさった 50 人で行う演習授業である。

（2）　平井洋子，2004『絵画指導のアイディア＆ことばがけ』，ひかりのくに株式会社，pp. 4–7

（3）　木谷安憲，2010「創造のきっかけを作るワークショップ『かいてみようシルエット』」，『大学美術教育学会誌』，第 42 号，pp. 103–110

（4）　参考 web サイト『ゆるふわ気球のモビールの作り方 ツクリスト』〈http://tukurist.com/homes/detail/257〉（2013 年 6 月 27 日アクセス）

（5）　わたなべあや，2013『なのはちゃんとちいさなおともだち』，学研教育みらい

（6） 参考資料　おおくぼともこ，2008『ヒンメリ―フィンランドの伝統装飾』，プチグラパブリッシング
（7） エリック・カール著，もりひさし訳，1989『はらぺこあおむし』，偕成社

（提出日　平成 25 年 9 月 26 日）